

注3

大学番号：私249

[平成22年度設置]

計画の区分：大学の設置

注1

認可

ヤマザキ学園大学 動物看護学部 動物看護学科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 ヤマザキ学園
平成23年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 事務部教務・学生課

職名・氏名 課長 ^{カケス}掛巢 ^{ユキユ}由紀子

電話番号 042-653-0901

（夜間） 042-653-0901

F A X 042-653-0902

e-mail kakesu@yamazaki.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は認可時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

認可時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

「意見伺い」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成23年3月11日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1 調査対象大学等の概要等	P 1
2 授業科目の概要	P 5
3 施設・設備の整備状況, 経費	P 10
4 既設大学等の状況	P 11
5 教員組織の状況	P 12
6 留意事項に対する履行状況等	P 18
7 その他全般的事項	P 19

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 ヤマザキ学園

(2) 大学名

ヤマザキ学園大学

(3) 大学の位置

〒192-0364 (本部)
東京都八王子市南大沢4-7-2
〒150-0046
東京都渋谷区松濤2-3-10

- 対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(ヤマザキ カオル) 山崎 薫 (平成6年6月)		
学長	(ナカムラ ツネノリ) 中村 經紀 (平成22年4月)		
副学長	(ヤマザキ カオル) 山崎 薫 (平成22年4月)		
学部長	(ワカオ ヨシト) 若尾 義人 (平成22年4月)		
学科長	(ニノミヤ ヒロヨシ) 二宮 博義 (平成22年4月)		

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成20年度に報告済の内容 → (20)

平成23年度に報告する内容 → (23)

- 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- 大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は、平成20年度開設の4年制の学科の場合(平成23年度までの4年間)ですが、開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称、定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
動物看護学部 動物看護学科 学士(動物看護学)	4年	180人	0人	720人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	180人 (-) [-]	-	180人 (-) [-]	-	人 () []	人	人 () []	人	1.01倍	
志願者数	243 (-) [-]	- (-) [-]	247 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []		
受験者数	240 (-) [-]	- (-) [-]	238 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []		
合格者数	230 (-) [-]	- (-) [-]	238 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []		
B 入学者数	182 (-) [-]	- (-) [-]	184 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []		
入学定員超過率 B/A	1.01		1.02							

- (注) ・ ()内には、編入学の状況について**外数**で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。
 ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成20~22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] 182	[-] -	[-] 184	[-] -	[]	[]	[]	[]	
2年次			[-] 165	[-] -	[]	[]	[]	[]	
3年次							[]	[]	
4年次									
計			[-] 182	[-] -	[-] 349	[-] -			

- (注) ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学整数**を記入してください。
 - ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 - ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成22年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	計 [-]	(累積)計 [-]	9.3%
	うち平成22年度入学者 17人	うち平成22年度 182人	
(主な退学理由) ・他の教育機関への入学・転学 3名 ・海外留学 1名 ・学生個人の心身に関する事情 5名 ・除籍 2名 ・その他(進路変更) 6名			
平成23年度 (平成23年4月1日～ 平成24年3月31日)	計 []	(累積)計 []	0.0%
	うち平成22年度入学者 0人	うち平成22年度 165人	
	うち平成23年度入学者 0人	うち平成23年度 184人	
(主な退学理由)			
平成24年度 (平成24年4月1日～ 平成25年3月31日)	計 []	(累積)計 []	%
	うち平成22年度入学者 人	うち平成22年度 人	
	うち平成23年度入学者 人	うち平成23年度 人	
	うち平成24年度入学者 人	うち平成24年度 人	
(主な退学理由)			

(注)・各年度の退学者数・在学者数については、該当年度間(例えば、平成22年度であれば、平成22年4月1日から平成23年3月末まで)の状況を記載してください。また、数字については確定した数値を記入してください。

- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度における退学者数】を、【当該対象年度の入学者数+当該対象年度の前年度までの確定した在学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。なお、参考までに例示を添付しますので、そちらをご参照ください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<動物看護学部 動物看護学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人文と社会	生活と哲学	2・3前	2		1						
		生活と法律	1前	2								
		生命倫理学	2・3後	2		1						
		芸術と表現	2・3前	2								
		文学と人間	2・3後	2			1					
		心理学入門	2・3前	2			1					
		生活と経済	1前	2								
		生活と社会	2・3後	2				1				
		キャリアマネジメント入門	2後	2						1		
		キャリアマネジメント演習	3前	1							1	
自然と環境	自然科学	1前		2		1						
	環境科学	2後		2		1						
	基礎生物学	1後		2		1					専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（22） 担当 鎌田壽彦（教授） 平成21年1月 教員審査済 判定可（22）	
	基礎化学	1後		2		1						
	基礎生化学	1後		2		1						
言語・情報・スポーツ	イングリッシュスキルズ（基礎）	1前	2				1			1		
	イングリッシュスキルズ（応用）	1後	2				1			1		
	フランス語入門	1後		2								
	情報リテラシ（基礎）	1前	1					1				
	情報リテラシ（応用）	1後	1					1				
	文章作法入門	2前		2				1				
	健康とスポーツ	2前		2								
	健康とスポーツ実技	3前後		1								
専門教育科目	専門基礎科目	生命科学概論	1前	2			1					専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（22） 担当 鎌田壽彦（教授） 平成21年1月 教員審査済 判定可（22）
		動物看護学概論	1後	2			1					
		動物形態学	1前	2			1					
		動物生理学	2前	2			1					専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（22） 担当 鎌田壽彦（教授） 平成21年1月 教員審査済 判定可（22）
		解剖生理学実習	2後	1							4	
		動物生化学	2前	2			1					
		動物薬理学	2前 2後	2								教育効果を高めるため、開講時期を後期から前期へ変更（23）
		動物生態学	2後	2			1					
		動物行動学	2前	2			0 +					専任教員（教授）就任辞退により、担当を兼任講師に変更（23） 担当 田中智夫 （兼任講師）（23）
		動物遺伝学	2後	2			0 +					専任教員（教授）就任辞退により、担当を兼任講師に変更（22） 担当 東條英昭（兼任講師）
		病理学	2後	2			1					
		動物人間関係学	2後 2前	2								教育効果を高めるため、開講時期を前期から後期へ変更（23）
サイエンスイングリッシュ	3前	2			1							

専門教育科目	動物看護学科目群	動物臨床看護学（基礎）	1前	2			1	1				<p>教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任講師から専任教員（講師）として新規採用（23）</p> <p>担当 花田道子（講師） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23）</p> <p>教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（教授）追加採用予定（23）</p> <p>担当 内田明彦（教授） 平成23年7月 提出予定 （23）</p> <p>教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（教授）追加採用予定（23）</p> <p>担当 内田明彦（教授） 平成23年7月 提出予定 （23）</p> <p>教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（教授）追加採用予定（23）</p> <p>担当 内田明彦（教授） 平成23年7月 提出予定 （23）</p> <p>教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（講師）1名を追加（23）</p> <p>担当 花田道子（講師） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23）</p>
		動物臨床看護学（基礎）実習	1通	2			1	1	2 +	4		
		動物臨床看護学（内科）	2前	2			2					
		動物臨床看護学（内科）実習	2通	2			2		1	4		
		動物臨床看護学（外科）	3前	2			1		1			
		動物臨床看護学（外科）実習	3通	2			1		1	4		
		動物臨床看護学（総合）	4前		2		2					
		動物臨床看護学（総合）実習	4前		1		1			4		
		動物臨床検査学	3前	2			1					
		動物臨床検査学実習	3通	2			1			4		
		動物医療機器	2後	2					1	1		
		ヒトと動物の共通感染症	3後	2			2 +		1			
		動物公衆衛生学	2前	2					1			
		微生物学	3前		2		2 +					
		血液学	3後		2		1					
		寄生虫学	3前		2		2 +					
		小動物放射線学	3後	2			1					
		動物臨床繁殖学	3後		2		1					
		小動物栄養学	3前	2			1					
		小動物臨床栄養学	3後		2		1					
リハビリテーション論	3前		2									
動物リハビリテーション	4前		2									
動物病院実習	3前後	1			1		2 +	1				
動物応用科目群	コンパニオンアニマルケア（グルーミング）論	1前	2									
	コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習	1前後	1						4			
	コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習	2前後	1						4			
	コンパニオンアニマルケア（グルーミング総合）実習	4前		1					4			
	イヌの特性論	3前	2			1						
	イヌの行動学	4前		2				1				
	イヌの行動学演習	4後		1				1				
	コンパニオンドッグトレーニング	4後		2								
	ネコの特性論	4前		2								
	コンパニオンパードの特性論	4前		2			1					
保全生物学	4前		2		1							
実験動物学	4後		2		1							
産業動物学	4前		2		1							
									<p>専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（23）</p> <p>担当 天野卓（教授） 平成22年9月 教員審査済 判定 可（23）</p>			

専門教育科目	専門応用科目	動物応用科目群	野生動物学	4後	2	1						専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（23） 担当 天野卓（教授） 平成22年9月 教員審査済 判定 可（23）	
		動物応用科目群	生物統計学	4前	2	1							専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（23） 担当 天野卓（教授） 平成22年9月 教員審査済 判定 可（23）
専門教育科目	専門応用科目	動物応用科目群	バイオテクノロジー	4後	2	1							
		動物応用科目群	動物愛護と関連法規の歴史	3後	2		1						
専門教育科目	専門応用科目	動物応用科目群	社会調査法	3後	2		1						
		動物応用科目群	動物災害・危機管理	4後	2								
専門教育科目	専門応用科目	動物応用科目群	ペットビジネスマネジメント	4後	2				1				
		動物介在福祉科目群	社会福祉論	3前	2								
専門教育科目	専門応用科目	動物介在福祉科目群	障害者福祉論	3後	2		1						
		動物介在福祉科目群	児童福祉論	3後	2								
専門教育科目	専門応用科目	動物介在福祉科目群	臨床心理学	3前	2	1							
		動物介在福祉科目群	障害者心理ケア論	4前	2					1			
専門教育科目	専門応用科目	動物介在福祉科目群	障害者心理ケア論演習	4後	1					1			
		動物介在福祉科目群	高齢者心理ケア論	3後	2	1							
専門教育科目	専門応用科目	動物介在福祉科目群	子供の発達と心理ケア	3後	2					1			
		動物介在福祉科目群	カウンセリング論	4前	2	1							
専門教育科目	専門応用科目	動物介在福祉科目群	ペットロス論	4前	2		1						
		動物介在福祉科目群	動物福祉とボランティア	4前	2		1						
専門教育科目	専門応用科目	動物介在福祉科目群	アニマルアシステッドセラピー論	3前	2	1		1					
		動物介在福祉科目群	アニマルアシステッドセラピー演習	3後	1				1		1		
専門教育科目	専門応用科目	動物介在福祉科目群	アニマルアシステッドセラピー実習	3後	1				1		1	4	
		動物介在福祉科目群	アシスタンスドッグ論	4前	2								
専門教育科目	専門応用科目	動物介在福祉科目群	アシスタンスドッグ演習	4後	1						2		
		共通科目群	アッセンブリーアワーⅠ（動物と看護）	1通	1			1					
専門教育科目	専門応用科目	共通科目群	アッセンブリーアワーⅡ（動物と環境）	2通	1			1					
		共通科目群	アッセンブリーアワーⅢ（動物と社会）	3通	1				1				
専門教育科目	専門応用科目	共通科目群	インターンシップ	3・4前後	1	1			1				教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（講師）1名を追加(23) 担当 花田道子（講師） 平成23年1月 教員審査済 判定 可（23）
		共通科目群	卒業論文	4通	6	14 13	5	3	5				専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（23） 担当 天野卓（教授） 平成22年9月 教員審査済 判定 可（23） および専任教員（教授）追加採用予定（23） 担当 内田明彦（教授） 平成23年7月 提出予定 （23）

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載いただき、設置認可時より変更されているものは赤字で見え消し修正いただき、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記載する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 42	科目 58	科目 0	科目 100	科目 [-]	科目 [-]	科目 [-]	科目 [-]	該当なし

(注) ・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[] 内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。(ただし、未開講科目があった場合は、(1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{} \quad 0.00$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	南大沢キャンパス (7,827.88㎡) 渋谷キャンパス (1,237.08㎡)			
	校舎敷地	8,139.32㎡	925.64㎡	1,323.80㎡	10,388.76㎡				
	運動場用地	1,065.39㎡	0㎡	0㎡	1,065.39㎡				
	小 計	9,204.71㎡	925.64㎡	1,323.80㎡	11,454.15㎡				
	そ の 他	1,398.71㎡	0㎡	0㎡	1,398.71㎡				
	合 計	10,603.42㎡	925.64㎡	1,323.80㎡	12,852.86㎡				
(2) 校 舎	専 用	9,181.62㎡	2,326.91㎡	3,202.43㎡	14,710.96㎡	ヤマザキ動物専門学校 (収容定員:720名、面 積基準1900㎡)と共用			
	(9,181.62㎡)	(2,326.91㎡)	(3,202.43㎡)	(14,710.96㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 語学学習施設と情報処 理学習施設の補助職員 は兼任			
	8 室	4 室	18 室	2室 (補助職員 2人)	1室 (補助職員 1人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		大学全体			
	動物看護学部 動物看護学科			33 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学開学までに視聴覚 資料が増加したため。 (22) 学生の学修環境を改善 するため、図書、視聴 覚資料及び標本を増加 した。(23)	
	動物看護学部・ 動物看護学科	33,426 〔3,005〕 〔2,981〕 (30,876〔2,944〕) (30,093〔2,648〕)	66〔30〕	9〔7〕	472 346 336 (472) (346) (336)	9,449	197 179 (197) (179)		
	計	33,426 〔3,005〕 〔2,981〕 (30,876〔2,944〕) (30,093〔2,648〕)	66〔30〕	9〔7〕	472 346 336 (472) (346) (336)	9,449	197 179 (197) (179)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	420.00㎡		64		40,000				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	558.40㎡		-						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	教育環境の充実を図る ため、設備購入費を増 額。(23)
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	32,000千円	300千円	300千円	
	共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	137,126千円 133,296千円	119,803千円 104,941千円	3,000千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,920千円	1,620千円	1,620千円	1,620千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入、資産運用収入等							

(注) ・ 設置認可時の計画を、認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれています。複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成23年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(23)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	ヤマザキ動物看護短期大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	収 容 定 員	学位又 は称号	定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
動物看護学科	3	—	—	—	短期大学士 (動物看護学)	—	平成16年	東京都八王子市 南大沢4-7-2	平成22年度より 学生募集停止

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- ・ 認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
- ・ 「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)の記載は不要です。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<動物看護学部 動物看護学科>

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授(副学長)	山崎 薫(59)	平成22年4月	イヌの特性論※ アニマルアシステッドセラピー論※						
専任	教授(学部長)	若尾 義人(65)	平成22年4月	動物看護学概論 動物臨床看護学(外科)※ 動物臨床看護学(外科)実習※ 動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※ インターンシップ 卒業論文						
専任	教授(学科長)	二宮 博義(66)	平成22年4月	動物形態学 動物臨床看護学(基礎)※ 動物臨床看護学(基礎)実習 実験動物学 動物病院実習 卒業論文						
専任	教授	関 正勝(71)	平成23年4月	生活と哲学 生命倫理学 卒業論文						
専任	教授	阿部 又信(70)	平成22年4月	基礎生化学 小動物栄養学 小動物臨床栄養学 卒業論文						
専任	教授	石田 恒雄(70)	平成22年4月	自然科学 環境科学 基礎化学						
専任	教授	小倉 啓子(68)	平成22年4月	心理学入門 臨床心理学 高齢者心理ケア論 カウンセリング論※ 卒業論文						
専任	教授	山田 隆紹(67)	平成22年4月	動物臨床看護学(内科)※ 動物臨床看護学(内科)実習※ 動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※ 卒業論文						
専任	教授	川上 静夫(66)	平成23年10月	動物生態学 動物臨床繁殖学 産業動物学 卒業論文						
専任	教授	東條 英昭(66)	平成22年4月	基礎生物学 生命科学概論 動物生理学 動物遺伝学 卒業論文	専任	教授	鎌田 壽彦(65)	平成22年4月	基礎生物学 生命科学概論 動物生理学 卒業論文	平成22年3月 東條英昭(教授)就任辞退による担当者の変更(22)
				兼任	講師	東條 英昭(66)	平成23年10月	動物遺伝学		
専任	教授	堀尾 政博(60)	平成24年4月	ヒトと動物の共通感染症※ 微生物学 寄生虫学 卒業論文						

専任	教授	岡崎 登志夫 (59)	平成24年4月	病理学 血液学 動物臨床検査学※ 動物臨床検査学実習※ 卒業論文						
兼任	講師	岡崎 登志夫 (59)	平成23年10月	病理学						
専任	教授	小黒 美枝子 (58)	平成22年4月	動物生化学 サイエンスイングリッシュ バイオテクノロジー 卒業論文						
専任	教授	谷口 明子 (51)	平成23年4月	動物臨床看護学(内科)※ 動物臨床看護学(内科)実習※ 小動物放射線学 卒業論文						
専任	教授	金子 弥生 (44)	平成23年4月	動物行動学 保全生物学 野生動物学 生物統計学 卒業論文	専任	教授	天野 卓 (68)	平成25年3月	保全生物学 野生動物学 生物統計学 卒業論文	平成23年3月 金子弥生(教授)就任辞退のため、平成23年度より担当者を変更(23) 平成22年9月 教員審査済
					兼任	講師	田中 智夫 (58)	平成23年4月	動物行動学	平成23年3月 金子弥生(教授)就任辞退のため、平成23年度より担当者を兼任講師へ変更(23)
専任	准教授	會田 保彦 (66)	平成24年10月	動物愛護と関連法規の歴史※ 動物災害・危機管理 動物福祉とボランティア 卒業論文						
専任	准教授	濱田 清吉 (65)	平成24年4月	障害者福祉論 卒業論文						
専任	准教授	小方 宗次 (65)	平成22年4月	動物臨床看護学(基礎)※ 動物臨床看護学(基礎)実習 アッセンブリーアワーⅠ(動物と看護) 卒業論文						
専任	准教授	島森 尚子 (54)	平成22年4月	文学と人間 イングリッシュスキルズ(基礎) イングリッシュスキルズ(応用) コンパニオンバードの特性論※ 卒業論文						
専任	准教授	新島 典子 (42)	平成22年4月	生活と社会 社会調査法 ペットロス論※ アッセンブリーアワーⅡ(動物と環境) 卒業論文						
専任	講師	本田 三緒子 (54)	平成22年4月	動物臨床看護学(外科)※ 動物臨床看護学(外科)実習※ 動物医療機器※ 動物公衆衛生学 アッセンブリーアワーⅢ(動物と社会) 卒業論文						
専任	講師	岡 勝巖 (45)	平成22年4月	情報リテラシ(基礎) 情報リテラシ(応用)						
専任	講師	西村 信子 (44)	平成24年10月	障害者心理ケア論 障害者心理ケア論演習 子供の発達と心理ケア 卒業論文						
専任	講師	川添 敏弘 (40)	平成22年4月	動物臨床看護学(基礎)実習 アニマルアシステッドセラピー論※ アニマルアシステッドセラピー演習※ アニマルアシステッドセラピー実習※ 動物病院実習 卒業論文						

専任	助教	山川 伊津子 (51)	平成23年4月	ペットロス論※ アニマルアシステッドセラピー演習※ アシスタンスドッグ演習※ 卒業論文						
専任	助教	赤羽根 和恵 (46)	平成23年4月	キャリアマネジメント入門 キャリアマネジメント演習 文章作法入門 ペットビジネスマネジメント※ 卒業論文						
専任	助教	鈴木 友子 (38)	平成23年4月	動物臨床看護学(内科)実習※ 動物医療機器※ ヒトと動物の共通感染症※ 動物病院実習 卒業論文						
専任	助教	渡邊 由紀子 (35)	平成22年4月	イングリッシュスキルズ(基礎) イングリッシュスキルズ(応用) 卒業論文	専任	助教	大橋 由紀子 (36)	平成22年4月	イングリッシュスキルズ(基礎) イングリッシュスキルズ(応用) 卒業論文	平成23年4月より改姓 (23)
専任	助教	堀井 隆行 (30)	平成23年4月	イヌの行動学 イヌの行動学演習 アニマルアシステッドセラピー実習※ アシスタンスドッグ演習※ 卒業論文						
					専任	教授	鎌田 壽彦 (65)	平成22年4月	基礎生物学 生命科学概論 動物生理学 卒業論文	平成22年3月 東條英昭(教授)就任辞退による担当者の採用 (22)
					専任	教授	天野 卓 (68)	平成25年3月	保全生物学 野生動物学 生物統計学 卒業論文	平成23年3月 金子弥生(教授)就任辞退による担当者の採用 (23) 平成22年9月教員審査済
					専任	教授	内田 明彦 (64)	平成24年4月	ヒトと動物の共通感染症※ 微生物学 寄生虫学 卒業論文	平成23年7月 教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員(教授)追加採用予定 (23) 平成23年7月変更書提出予定
兼任	講師	渋谷 寛 (50)	平成22年4月	生活と法律 動物愛護と関連法規の歴史※						
兼任	講師	米金 孝雄 (48)	平成22年10月	フランス語入門						
兼任	講師	早川 洋子 (44)	平成23年4月	健康とスポーツ 健康とスポーツ実技						
兼任	講師	加藤 剛 (36)	平成22年4月	イングリッシュスキルズ(基礎) イングリッシュスキルズ(応用)						
兼任	講師	早田 由貴子 (60)	平成22年4月	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※ ネコの特性論						
兼任	講師	山崎 恵子 (56)	平成24年4月	アニマルアシステッドセラピー論※						
兼任	講師	尾崎 明恵 (55)	平成23年10月	動物薬理学 動物臨床看護学(外科)実習※						
兼任	講師	潮見 泰蔵 (54)	平成24年4月	リハビリテーション論						
兼任	講師	山本 央子 (51)	平成25年4月	コンパニオンドッグトレーニング						
兼任	講師	安藤 孝敏 (50)	平成23年4月	動物人間関係学						
兼任	講師	井上 留美 (44)	平成25年4月	動物リハビリテーション						

兼任	講師	高柳 友子 (43)	平成25年4月	アシスタンスドッグ論						
兼任	講師	前原 晴彦 (44)	平成25年4月	ペットビジネスマネジメント※						
兼任	講師	菅野 晶子 (38)	平成24年4月	動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※ 動物臨床検査学実習※						
兼任	講師	小嶋 篤史 (36)	平成25年4月	コンパニオンパードの特性論※						
兼任	講師	福山 貴昭 (36)	平成22年4月	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習 コンパニオンアニマルケア(グルーミング総合)実習 イヌの特性論※						
兼任	講師	八木原 怜子 (33)	平成24年4月	動物臨床検査学※ 動物臨床検査学実習※						
兼任	講師	秋元 弘子 (52)	平成24年4月	社会福祉論						
兼任	講師	齋藤 知子 (43)	平成24年10月	児童福祉論						
兼任	講師	大谷 伸代 (42)	平成23年10月	解剖生理学実習※						
兼任	講師	杉浦 陽介 (33)	平成23年10月	解剖生理学実習※						
兼任	講師	岡藤 円春 (27)	平成25年4月	カウンセリング論※						
兼任	講師	花田 道子 (60)	平成22年4月	動物臨床看護学(基礎)実習	専任	講師	花田 道子 (61)	平成23年4月	動物臨床看護学(基礎)実習 動物病院実習 インターンシップ	平成23年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任講師から専任教員(講師)として新規採用(23) 平成23年1月 教員審査済
					兼任	講師	東條 英昭 (66)	平成23年10月	動物遺伝学	平成23年3月 東條英昭(教授)就任辞退による兼任への変更(22)
					兼任	講師	田中 智夫 (58)	平成23年4月	動物行動学	平成23年3月 金子弥生(教授)就任辞退により科目担当者を変更(23)

(注) ・ 認可申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、「認可時の計画」には開設時現在の満年齢(科目就任時の満年齢ではありません)を、「変更状況」には平成23年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
また、「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「〇年〇月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。
- ・ 専任教員を変更する場合は、当該専門教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。

(2) 専任教員数

認可時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
15	5	4	5	29	18	16	5	5	5	31	18	平成23年3月教授1名辞退 教員組織の充実を図るため、教授1名および講師1名追加 なお平成23年7月に教授1名変更書提出予定(23)
(9)	(3)	(3)	(1)	(16)	(12)	[1]	[0]	[1]	[0]	[2]	[0]	

(注) ・「認可時の計画」には、設置認可時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成23年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置認可時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	教授	東條 英昭	一身上の都合による就任辞退（22）
2	教授	金子 弥生	一身上の都合による就任辞退（23）

（注）・設置認可時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

当該教員の就任辞退は、授業開講前に代替教員を採用したことで、学生の学修への影響はほぼ無いと判断している。学生には、授業開講前であるため、シラバスの配布をもって周知する。（22）

当該教員の就任辞退は、授業開講前に代替教員を採用したことで、学生の学修への影響はほぼ無いと判断している。学生には、授業開講前であるため、シラバスの配布をもって周知する。（23）

（注）・上記（3）の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (平成21年10月)	<p>・設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p> <p>・動物看護学に関する教育研究を向上させる観点から、動物実験が必要となることも十分に考えられるため、それを学内でも実施できるよう環境作りに努めること。</p>	<p>・開学時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行い、その水準を一層向上させるように、各種委員会を立ち上げ、努力をしている。</p> <p>研究に関しては、「年間計画書」を提示するとともに、個人研究・共同研究を推進する体制作りを行っている。</p> <p>教育に関しては、自己点検・評価に関する準備を進めるとともに、学生による授業評価アンケートの実施等の検討やFD活動を履行している。</p> <p>このように大学組織全体として、継続的に取り組んでいるところである。(22)</p> <p>・4年間の学修の集大成となる卒業論文指導を充実させるため、平成22年度から「研究委員会」を数回実施し、具体的な卒業論文実施計画案を策定し、計画案にそって準備を重ねている。(23)</p> <p>・動物実験に関する検討は、「研究委員会」「DNA実験安全委員会」を立ち上げるとともに、動物看護学に関する教育研究を向上させるよう手法及び環境作りを検討しているところである。(22)</p> <p>・平成22年度は「DNA実験安全委員会」にて、組換えDNA実験安全管理規程にそった実験計画を策定し、準備を重ねている。平成23年度においても引き続き検討を重ねる。(23)</p>	
設置計画履行状況 調 査 時 (平成23年2月)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<動物看護学部 動物看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>設置の趣旨</p> <p>① アッセンブリーアワー（動物と看護）等について</p> <p>② 図書等の資料及び図書館の整備計画 渋谷キャンパス：14,576冊 南大沢キャンパス：15,517冊</p> <p>③ 専修学校施設との共用</p> <p>学則</p> <p>④ 学則の組織について 事務部</p> <p>⑤ 学則の休業日について 休業日 土曜日、日曜日</p>	<p>① アッセンブリーアワーの運営について 担当教員の授業負担に鑑み、4分割から2分割にした演習形式とし、柔軟に対応できるような科目運営体制とする。 なお、隔週授業の為、学生に混乱を与えないよう連絡や掲示等をしていくこととする。</p> <p>② 学生の学修環境を改善するため、1年次のカリキュラムに一層即した蔵書となるよう見直しを実施し、渋谷キャンパスの蔵書数を14,576冊、南大沢キャンパスの蔵書数を15,517冊とした。(22)</p> <p>学生の学修環境の充実を図るため、渋谷キャンパスの蔵書数を14,927冊、南大沢キャンパスの蔵書数を15,949冊とした。(23)</p> <p>③ 大学渋谷1号館については、大学が使用しない曜日と時間帯を限定した上で実習室を共用としている。 その他の施設に関しては、必要に応じて施設利用申請許可で施設貸しを実施している。</p> <p>④ 事務部を事務局とし、2キャンパスにおいて相互に連携をとって学生支援が可能となるよう組織を編成した。</p> <p>⑤ 休業日を日曜日のみとし、講義等の事前事後指導時間を確保し、学生にとってより良い履修計画を実施出来るよう変更した。</p>

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況 FD委員会

ヤマザキ学園大学FD委員会規程

（目的）

第1条 ヤマザキ学園大学（以下「本学」という。）学則第4条の規定に基づき、本学教員は、動物愛護の精神と豊かな人間性を基盤として、広い知識と専門の学芸を深く教育・研究することを任務とし、質的向上の推進並びに教育方法の改善等を見直し、本学の教育充実をいっそう図るため、FD（Faculty Development）委員会（以下「委員会」という。）規程を定める。

（審議事項）

第2条 委員会は、前条の目的に資するため、次の事項を審議する。

- (1) 教員の質的向上の推進について
- (2) 教員の授業改善、見直しについて
- (3) 教員の教育技術の向上について
- (4) 学生による授業評価等について
- (5) 教員の学会等を始め、学内外諸団体等の研修の参加等について
- (6) その他、学長の諮問について

（構成）

第3条 委員会は、次の委員をもって、構成する。

- (1) 学部長、学科長及び教務部長
- (2) 教授、准教授、講師及び助教の各代表 1名
- (3) 教務委員会委員 1名
- (4) 自己点検・評価委員会代表 1名
- (5) その他学長が指名する者 若干名

（任期）

第4条 委員の任期は、役職者はその在職期間とする。その他の委員は、2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第5条 委員会に委員長を置き、学部長とする。

（会議）

第6条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 学修総合委員会の要請、その他必要に応じ、開催する。

（議事録）

第7条 事務担当者は、委員会の議事録を作成し、保存するとともに、必要に応じ、学修総合委員会及び教授会に報告しなければならない。

（事務）

第8条 委員会の事務は、本学事務局教務課において行う。

（規程の改廃）

第9条 この規程の改正及び廃止は、教授会の議を経て学長が定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から制定施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

・平成22年度 2か月に1度開催 ※3月は震災の影響で開催取り止め

第1回：平成22年5月25日（参加9名、欠席0名）

第2回：平成22年7月27日（参加8名、欠席1名）

第3回：平成22年9月21日（参加8名、欠席1名）

第4回：平成22年11月30日（参加6名、欠席3名）

第5回：平成23年1月25日（参加6名、欠席3名）

・学部長を委員長とし、教員から選出される委員7名と担当事務職員にて委員会を開催
委員会開催は、委員の過半数以上の出席をもって成立とし、毎回、開催要件を満たしている

c 委員会の審議事項等

- ・学生の教員評価について（授業評価アンケートの項目立案、実施、集計結果の分析）
- ・研究業績に関する情報公開について
- ・FD関連の情報収集及び提供について
- ・FDに係る研修会及び講習会の実施について

② 実施状況 ※実施されている取組を全て記載すること。

a 実施内容

- ・ 教育研究にかかわる研修
- ・ 授業科目の教育目標の周知・徹底
- ・ カリキュラムの改善
- ・ シラバスに関連する対応
- ・ 授業評価
- ・ FD関連の情報収集と周知
- ・ FDに関する研修

b 実施方法

- ・ FD委員会において、各取組み方法を検討し、授業評価アンケート様式等を策定して実施している。実施後は結果をまとめ、教員全員が出席する専任教員連絡会等を通して公表している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 教育研究にかかわる研修
新しい学問分野である動物看護学、動物看護学教育について、教育上の目的や養成する人材像について考えを統一しておくことが必要であるとの観点から、研修会を開催し、意思統一を図っている。
- ・ 授業科目の教育目標の周知・徹底
授業担当者が内容について十分に話し合い、他の授業科目との関連(授業内容及び授業範囲)について、連携を踏まえながら、教育目標の周知・徹底について取り組んでいる。
- ・ カリキュラムの改善
教育内容の向上を図るために、学生による授業評価と教員による自己評価、動物看護を巡る国内外の教育研究の動向を考慮したカリキュラムの改善を目指し、カリキュラムに多少の修正を加えながら授業を実施している。
- ・ シラバスに関連する対応
シラバスの内容の充実・改善を図るため、FD委員会にて、成績評価基準について検討を行なっている。
- ・ 授業評価
学期の最終授業時に各科目の授業評価アンケートを行い、結果を科目個別、講義科目全体、実習科目全体で集計し、全体と比較した。授業の改善資料として、科目個別集計結果は、担当教員に配布している。
- ・ FD関連の情報収集と周知
FD委員会にて、他大学のFD関連活動の取り組みを取り上げ、議論している。
- ・ FDに関する研修
FDに関する研修の一環として、大学設置基準改正による業績の情報公開に伴い個人研究・業績のとりまとめの必要性から、学内において教員10名以上が出席して、平成22年12月13日に教員対象研究業績管理システムの勉強会を開催している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 授業評価アンケートを半期毎に実施、全体集計結果に対する科目毎の結果をレーダーチャートにし、各教員へ通知した。これを受けて各教員からFD委員長に、授業改善等の報告書を提出することとした。ただし、今回は実施対象学生が1年次生のみであることから、今回のレーダーチャートのみで授業を評価することは難しいと判断し、今後数回の授業評価、学生の状況等を勘案し、場合によっては、学長による面談等を実施して、授業改善に取り組むたいと考えている。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学としての全般にわたる自己点検・評価は、学部長が中心となる自己点検・評価委員会によって、専任教員や事務部に対し、自己点検・評価の重要性及び、調査や資料収集の意義を説明する場を設けるなどし、十分な意思の疎通を図り実施体制を築く。各自が自己点検・評価の意義を理解し、改善すべき点を分析し努力していくことになる。

開学にあわせ「ヤマザキ学園大学自己点検・評価委員会設置について」及び「ヤマザキ学園大学自己点検・評価委員会規程」を制定し、平成23年度に委員会を発足させる予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成26年7月 公表予定

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、関係機関に配布予定
- ・大学ホームページ上に公開予定（平成26年7月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成26年度に評価機関（財団法人 日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置認可時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (2010年6月15日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク (承諾する 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(<http://www.yamazaki.ac.jp/jigyo/img/pdf/rikou2011.pdf>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。

なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。